

ピース・ウイング長崎 会報

へんりつ

109号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)814-0056  
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 十八年度はこのような事業を実施してまいります
- 【平和案内人】広島研修会を開催
- 祈念館平和ボランティア育成外国語講座の「フィールドワーク」が実施される。

- 最近のニュースから
- 四館合同事業・最後のお願い
- 「平和の旅へ」合唱団演奏計画
- 情報コーナーメッセージ

この一年を、記憶しよう、記録しよう。



十八年度は

# このような事業を 実施してまいります

三月九日(木)と二十三日(木)の両日、評議員会、理事会が開催され、十八年度の事業計画・予算案が承認されました。  
新年度も協会の事業運営等、益々力を注いでまいりますと考えていますので皆様方の変わりぬご理解とご協力をお願いいたします。

## Ⅰ 一般事業

### 1 発刊事業

#### (1) 会報「へいわ」

協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きをとらえ、会員に情報を提供するとともに、会員相互の連携を図ります。

#### (2) ブックレット「平和のあゆみ」

協会の年間を通じた平和意識高揚のための取り組み、活動状況、事業実施状況等をまとめたものです。

#### (3) 広報活動費

ホームページの改修等を迅速に行い、協会活動の周知を図ります。

#### (4) 情報BOXの発行

年4回発行している機関紙「へいわ」発行の合間に、事務局の動きや

行事の紹介をするため理事・評議員

をはじめ部会員や学生ボランティア宛に毎月発行しています。

### 2 啓発事業

#### (1) 被爆体験講話の実施

被爆体験の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学生などに被爆体験講話を実施します。

#### (2) ピースネットの実施

東日本(北陸、中部、東海地方を含む)・県内離島・沖縄県内の小中学生に対し、テレビ会議システムによる平和学習を実施します。

#### (3) 講演会等の開催

平和問題への認識を深めるため、講演会を開催します。



▲国連軍縮週間「市民のつどい」(17年度)

#### (4) 国連軍縮週間行事

国際平和と文化の国際年を記念した国連軍縮週間(10/24～10/30)に「市民のつどい」を実施し、若い人たちが参加しやすい催しなどを行います。

### 3 調査研究事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムなどに出席し、情報収集や関係機関との交流を図ります。

### 4 育成事業

#### (1) 部会活動

会員が市民とともに、平和意識の高揚を図るための活動を行います。(継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会)

#### (2) アジア青年平和交流事業

日本の若者とアジア諸国の若者が、お互いの国を訪問し、長崎の被爆の実相や文化・歴史を学び、意見交換や交流を通して、相互理解を促進し平和意識の向上を図ります。



▲アジア青年平和交流事業(17年度、韓国・天安、独立記念館)

▲ピースネット交信(17年度)

# 平成18年度収支予算

## ■収入

(単位:千円)

	科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
一般会計	基本財産運用収入	15	15	0
	会 費 収 入	4,480	4,150	150
	補 助 金 収 入	31,737	31,737	0
	寄 附 金 収 入	1	1	0
	基本財産収入	1	1	0
	繰 入 金 収 入	1,800	1,500	300
	雑 収 入	1	1	0
	一般会計合計	38,035	37,405	450
特別会計	受 託 事 業	272,403	313,329	△10,581
	収 益 事 業	25,000	23,000	2,000
	特別会計合計	297,403	336,329	△8,581
収 入 合 計		335,438	373,734	△8,131

## ■支出

	科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
一般会計	(1)発 刊 事 業	3,003	2,799	24
	(2)啓 発 事 業	3,120	3,930	△810
	(3)調査研究事業	200	200	0
	(4)育 成 事 業	7,601	6,199	1,402
	(5)推進対策事業	561	727	△166
	管理運営事務	23,549	23,549	0
	基本財産預金	1	1	0
	一般会計合計	38,035	37,405	450
特別会計	受 託 事 業	272,403	313,329	△10,581
	収 益 事 業	25,000	23,000	2,000
	特別会計合計	297,403	336,329	△8,581
支 出 合 計		335,438	373,734	△8,131

(3) ボランティアの活動支援  
平和活動の担い手となる学生ボランティア及び外国語ボランティアガイドの活動支援を行い、平和認識の視点や観点を醸成します。

(5) 秋月グラント  
被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ助成します。

(6) 平和案内人の派遣事業  
主に修学旅行生や観光客を対象とした碑めぐりや資料館・追悼平和祈念館等の案内ガイドとして平和案内人を派遣します。

1 長崎原爆資料館観覧料収納・受付案内業務  
2 長崎原爆資料館図書資料整理業務  
3 青少年平和交流事業  
4 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

原爆・平和に関する図書や平和意識啓発普及のための物品などの販売を長崎原爆資料館の図書販売コーナーで行います。

## II 受託事業

## III 収益事業





【平和案内人】

# 広島研修会を開催

2月16・17日、平和案内人が広島を訪れ、広島平和記念資料館の見学やヒロシマピースボランティアとの意見交換などを行いました。

「ガイドをするうえで、長崎の被害だけを語るわけにはいかない。広島・長崎双方の被爆の様子を広く伝えていきたい」と、平和案内人の発案により実施。費用を自己負担して参加した18人の平和案内人が、広島原爆の実相を学びました。

一日目はヒロシマピースボランティアによる広島平和記念資料館のガイド付き見学でした。普段はガイド役の平和案内人がガイドを受ける立場となり、改めて自分のガイドのあり方を振り返る機会にもなったようです。

「よく勉強され、ストーリー的に話され、戦後生まれのかたなのに、聞く者への気遣い、反応を見て話し続けられ、真剣に最後までガイドを受けました。もっと磨かなければと痛感しました」「じっくり見てもらいたい部分では説明せずに、自分で感じとってください」とのスタンスに共鳴しまし

た」など感想が寄せられています。

二日目は広島市の被爆建造物や平和公園を見学した後、被爆体験講話を聴講。さらに、ヒロシマピースボランティアとの交流会を開催しました。実際に顔を合わせるのは始めてでしたが、定説の難しさ、対話の必要性、時間が制約される中で案内、観光と資料館見学のちがいに、被爆直後の匂いの説明の難しさなどについて、忌憚のない意見が交わされました。

世界に二つしかない被爆地で活動する者同士、多くの人に平和の尊さを伝えるために、お互いの知識を共有し、今後一層の交流を深めてまいります。



## 安次郎、 広島に行く！

(平和案内人、広島研修旅行報告)  
平和案内人・田中 安次郎

ちちをかえせ、ははをかえせ

としよりをかえせ

わたしをかえせ

わたしにつながる

にんげんをかえせ

にんげんの

にんげんのよのあるかぎり

くずれぬへいわを

へいわをかえせ

広島平和記念公園の一角にある  
詩人 峠 三吉氏の詩碑文です。

平和公園に着き、まずその大きさ、広さに、あ然とするとともに、このシーズンに修学旅行の小中学生、一般の方、外国からの来訪者がひきまきらず、私たち仲間同士で顔を見合わせ「多かね、うらやましかね!!」あらためて被爆地広



島のネームバリューの大きさを感じました。

冷たい小雨の中訪問した全員で、原爆死没者慰霊碑に献花、黙祷、「安らかに眠ってください、過ちは繰り返しませんから」の碑文が胸をよぎりこみあげてくるものがありました。

広島ピースボランティアの皆さんに資料館ガイドをしていただいた。スペースも広く、江戸時代からの広島歴史に始まり戦中、戦後と多くの展示物を、豊富な知識と経験をもとに、説明をしてくださいました。しかし、こうなるまでには挫折と試行錯誤をくりかえし、7年間あまりかかったという話でした。ガイドがうまくなることとの第一は数多く場を踏むこととして、原爆についてはもとより、



## 広島研修に参加して

平和案内人 木原秀夫

平和案内人は自主研修の一環として、「広島をもっと知りたい」という目的で二月十六日から一泊二日で広島に行き総勢二十人が参加した。

広島はこの日小雨でやや寒い。まずは平和記念公園内の原爆死没者慰霊碑に献花、次いで黙祷を捧げた。

午後になって平和記念資料館に入り、私たちの班はピースボランティアの藤井さんの説明を受ける。東館から中央館までの約二時間、藤井さんの説明はていねいで分かり易く、その知識の豊富さに驚かされた。

館内は広く、展示物も豊富で、標識や説明板も分かりやすかった。横に長い館内だから順路ははっきりしている。

延焼の町の中から避難する人々のジオラマ。壊滅した広島町の模型などひしひしと伝わってくる。

長崎の資料館が「ファットマン」を前面に押し出しているのに対して、広島では「リトルボーイ」は多くの展示物の中の一つの扱いであったのは意外と感じた。

その後、国立追悼祈念館を見学。二日目の朝はくもり、気温は一〇

度前後だったが次第に明るく暖かくなった。

午前は松田斉さんのガイドで被爆遺構巡り。旧日銀・袋町小学校・旧帝銀・元安橋・爆心地・原爆ドームなどを訪れる。印象深いのは袋町小学校の壁にチョークで書かれた安否情報で、極限下での家族を思う気持ちが伝わってくる。また、爆心地の標識は、世界に発信する平和都市広島にしては意外！と感じた。

続いて、ピースボランティアの妹尾さんより平和記念公園内を案内してもらおう。今は広い公園であって不思議でもないが、かつては木造二階の職人町が多かったと聞くと、向こう三軒両隣の賑やかだった町並みが目につく。慈仙寺・ハンゲルの慰霊碑などの説明を受ける。

午後は東館で広島の皆さん十数名の方と意見交換会。それぞれの思いは出たがとても時間が足りない。次回はぜひ余裕をもって臨みたい。

駆け足の研修旅行ではあったが皆さんそれぞれに収穫は大きかったと思う。広島の皆さん有り難うございました。

事務局のお二人さんお世話になりました。

歴史、文化、風俗等多岐にわたる勉強が必要であると思ひ知らされました。

広島資料館で気付いたことは、被爆前・後の広島市街のパノラマが同時に展示され、その被害の大きさがわかりやすく、また、放射線コーナーではやさしい言葉と図解で説明がなされてたいへん参考になりました。

一方、広いうえに展示物が多いので、時間に限られた来館者のなかには、歴史展示コーナーに時間を取られ、肝心の原爆コーナーは駆け足になるかたもいらっしやるかも知れません。

他を知り、自分を知る、の言葉のように、長崎原爆資料館も各コーナーごとに一つずつ焦点を当てて展示してあり、長崎らしさが出ていると思ひました。入り口かららせん状に下る通路は、外界と資料館を区別する重要なスペースであることを再認識しました。

2日目、子供のころ広島に住み、小学校も広島だった平和案内人の松田斎氏の案内で被爆遺構をめぐりました。青空のもと白神社、旧日本銀行広島支店、相生橋、原爆ドーム、爆心地、元安橋、旧本川国民学校、旧袋町国民学校などを回り、ひきつづきヒロシマ。ピー

スボランティアのかたの案内で、平和公園内にある、多くの被爆慰霊碑を見学しました。

当時でも、30万を超える大都市広島、その中心地に落とされた、世界最初の原子爆弾、被害の規模や死傷者の数は長崎の約2倍以上、そのすさまじさ、凄惨さがひしひしと感じられ、平和な時代に生きる私は、戦争のむなしさ、むごさをあらためて学んだ気持ちになりました。

ヒロシマピースボランティアの方々とのミーティングにおいても、若い世代に今後どう伝えていくかが一番の課題と、とらえられていました。

私もこの研修において、定年後に、この平和案内人の仕事ができることを感謝するとともに、あらためて被爆建造物の保存や発掘、継承の大切さを痛感いたしました。

被爆61年目の本年、65年、70年の節目に向けて、毎日こつこつと平和の大切さを訴え、二度とあのようなあやまちの日々がこないように叫び続けることが、与えられた責任と義務と考え、皆様のご指導を仰ぎながら、誇りを持ってこの仕事を続けていきたいと思ひます。この2日間貴重な体験ありがとうございました。



# 祈念館平和ボランティア育成外国語講座の 「フィールドワーク」が実施される。

追悼平和祈念館事業の平和ボランティア育成外国語講座のフィールドワーク（実地研修）が今年2月から3月にかけて実施され、総勢約90名の受講者の皆さんが講座で学んだ成果を発揮されました。

平和ボランティア育成外国語講座は、英語、中国語、韓国語で平和ゾ

あるものになったと確信しています。

ランティアの育成を目的として当祈念館の開館以来実施されており、今年度で3年目を迎えます。

今回のフィールドワークは、クラス毎に実際現場に出てガイドになったつもりで、講座で学んだ原

今年度の講座は昨年6月から9月にかけての合同の事前研修、各言語に分かれた後の10月からの本講座と約10ヶ月間の長期におよぶもので受講者の皆さんもご苦労が多かったと思いますが、その分原爆やその被害に関する知識の習得のための時間も十分にとることができ、文字どおり「平和ボランティア」を育成する講座として意義の



爆資料館の展示資料や被爆建造物などの説明についてそれぞれの言語でチャレンジしてもらったものでしたが、使用して

いるテキストに載っている以外の情報も加えながらガイドにチャレンジされるなど皆さん日頃の講座の時よりも大変積極的に、たまたま原爆資料館を訪れていた外国人観光客が皆さんの説明に熱心に耳を傾ける場面もあるなど同行した講師の方々にも「大変素晴らしい評価をいただきました。」と高

また、受講者の皆さんも今回のフィールドワークに参加されたことでこれからどこに力を入れて学習していくべきかを把握され、やる気を一層持たれたのではないかと思います。

残念ながら今年度の講座はこの3月で



終了しましたが、受講者の皆さんには、この講座で学ばれたことを活かす意味からも、平和推進協会のボランティアガイドとして登録後、外国からのお客さんに対するガイドを通じて国際交流を深めながら原爆の被害の悲惨さを世界へ伝える平和ボランティアとして実際に活動していただくことにしています。今回のフィールドワークはまさしくその第一歩になったのではないかと思います。



## 四館合同事業・最後のお願い

被爆資料・遺影・体験  
記収集の全国展開を長  
崎・広島の両祈念館・両  
資料館（四館）の合同事  
業として平成十六年七月  
から始めたこの事業も残  
すところ後わずか。

期間中の国立長崎原爆  
死没者追悼平和祈念館分  
の収集数は二月末累計で  
遺影九一三人（目標二千  
人）、体験記百三十一人  
（目標百点）。遺影収集は  
目標に及びませんでした  
が、最後までご協力よろ  
しくお願いいたします。

なお、遺影・体験記の  
収集は四館合同事業終了  
後の四月以降も、当祈念  
館の本来の事業として続  
けてまいりますので、引  
き続きみなさまのご協力  
をお願いいたします。

また、長崎県立長崎工  
業高等学校（旧工業学校）  
同窓会の方々も遺影収集  
委員会を立ち上げて、ご学  
友の遺影を一人でも多く  
当祈念館に奉納したいと  
取り組まれておりますの  
で、同委員会にも情報提  
供など、みなさまのお力  
添えをお願いいたします。

被爆60周年 被爆資料・遺影・体験記全国事業  
継承—ヒロシマ・ナガサキの記憶

**少年の弁当も  
未来も黒焦げにした  
原爆の真実を  
今こそ伝えてください。**

被爆60周年を機に、ヒロシマ・ナガサキはひとつになり  
被爆資料・遺影・体験記を募集します

【募集内容】  
①被爆資料：被爆時着用した衣類、所持品、食料、日用品、手紙、日記、写真、録音テープ、ビデオテープ、CD、DVD、デジタルデータ等。  
②遺影：被爆時撮影された写真、ビデオテープ、デジタルデータ等。  
③体験記：被爆時の体験談、被爆後の生活、心路、家族の思い出等。文字数：約1000～2000文字程度。写真：被爆時撮影された写真、ビデオテープ、デジタルデータ等。

【募集期間】  
2004年10月1日～2005年3月31日

【募集場所】  
長崎県立長崎工業高等学校（旧工業学校）同窓会  
〒852-8501 長崎県長崎市大町1-1-1  
TEL: 095(821)2648 FAX: 095(821)2649  
E-MAIL: hiroshima@nagasaki-nippon.or.jp

【お問い合わせ先】  
旧工業学校遺影収集委員会  
〒852-8501 長崎県長崎市大町1-1-1  
TEL: 095(821)2648 FAX: 095(821)2649  
E-MAIL: hiroshima@nagasaki-nippon.or.jp

旧工業学校遺影収集委員会の連絡先  
095(821)2648・平澤知二良氏（副委員長）まで。

## 最近のニュースからII

### 米国とインドが 核協力協定に合意

3月3日「米国とインドが核協力協定に合意」という衝撃的なニュースが新聞各紙に大きく掲載されました。これは、インドが現在持っている軍用と民生用の22の原子炉のうち、民生用の14施設について国際原子力機関（IAEA）の査察を受け入れ、米国から開発の支援を受けるというもので、既に昨年7月に基本合意をしていました。

今回の合意の問題点は、NPT（核不拡散条約）に加盟しないまま1974年と98年に核実験を実施したインドに対して、米国が民生用核施設の開発支援を行うとともに、インドを事実上核保有国として公認することになったことです。

### 核不拡散体制の 弱体化を懸念

NPTは非核保有国に核兵器保有を放棄させる一方で核の平和利用の権利を認めるものですが、こんにちイランや北朝鮮の核兵器開発が国際的に大きな問題になっている中で、NPTに加盟していない国へのこのような特別扱いは、核不拡散体制の一層の弱体化を招くことになるとの懸念が広がっています。

多国間による約束よりも中国の覇権を警戒して国益を優先する米国に対して、他の核保有国から反対の声はなく、インドへの原子炉売り込みをねらうフランスに至っては協定を歓迎する声明さえ出しています。NPTで優遇されているこれら核保有国の姿勢に国際社会は大きな疑念を抱いています。

### 私たちの鋭い視線と 訴えこそが…

98年、核実験を実施したインドに対して米国と日本は経済制裁を課しました。その後インドが核政策を一層進める中、テロ対策に協力したことをもって日米両国がその経済制裁を解除したとき、日本政府に毅然たる対応を要請した長崎市を除いて、日本のどこからも異議を訴える声は聞かれませんでした。そのような無関心が、いつしか今回のような核保有国の横暴を許す結果を招いてはいないでしょうか。

3月9日には「米国が冷戦後初の核弾頭製造へ」とのニュースも飛び込んできました。古くなった核弾頭に替わる新型核弾頭の製造を20年ぶりに再開するといふのです。このような世界の動きに、被爆地に住む私たちが日々鋭い視線を向け、声を上げていかなければ、核兵器は大手を振って存在し続けていくのではありませんでしょうか。

(N)



お知らせ

# 「平和の旅へ」 合唱団演奏計画

長崎の被爆者渡辺千恵子さん（故人）の半生を綴った、合唱と語りによる構成「平和の旅へ」が、被爆から40周年の昭和60年（1985年）の初演以来、157回以上を数えることになるそうです。

まもなく、春の修学旅行シーズンを迎えることとなりますが、すでに5月と8月に公演予約が入っています。

5月26日（金） 20時頃

孔舎衛（くさか） 中学校

会場 矢太樓南館

## 会費納入のお願い

当協会は官民一体となって、平和を維持するための各種事業に取り組んでいます。皆様から納入いただいている会費は、被爆体験の継承事業をはじめ、会報「へいわ」の発行や「平和案内人」の事業などを行うための重要な財源です。

どうか、会費が協会の活動を大きく支えていることをご理解いただき、今年度まだ納入されていない方は、郵便局でお払い込みいただけますようお願いいたします。

維持会員	年間	三千元
賛助会員	年間一口	一万円
学生会員	年間	千円

## 祈念館だより



## 情報コーナーメッセージ

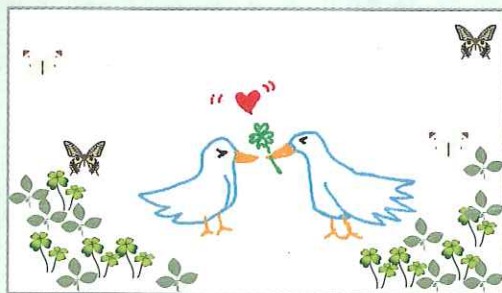
## 平和の灯を世界中に

ともしていきましょう

- ① ずかに時はたっすれど
- ② あの頃の悲しみや苦しみと
- ③ わずれてはいずばい。
- ④ せだいをこえても語らついでいかにばてばいずばいと。ひう二度とくすかえしてはいずばい。



LOVE & PEACE!!!



皆が思いやりをもてれば、戦争はなくなると思うそんな温かい社会になることを祈ります



平和が一番

## 表紙デザイン(数字)の説明

- 1945 (終戦の年)
- 73,884 (原爆による死者数)
- 74,909 (原爆による重軽傷者数)
- 8.6.9.15 (広島・長崎原爆投下日、終戦記念日)
- 10.20 (秋月初代理事長ご逝去の日)
- 60 (被爆60周年)
- 1.4 (爆心地から、浦上第一病院までの直線距離)
- 2005 (2005年60周年)

平成18年2月28日現在

## 会員数報告

維持会員	1,365名
賛助会員	161名
臨時会員	14名
学生会員	7名
合計	1,547名

- ・ 12月から2月現在までの寄附者です。
- ・ 松下 美築子 (九千三百七十円)
- ・ 柴田 夏乃・川田 真紀 (連名 三万円)
- ・ 匿名 (二万八千円)
- ・ 財団法人 広島県相互扶助会 (十万円)
- ・ 財前 博 (二千七百元)
- ・ 湖東中学校二年生同 (二万八千円) (敬称略)

ご寄附ありがとうございます  
ございました

本紙は再生紙を使用しています。

平成十八年三月三十日発行  
印刷 株式会社 インテックス